

包括的分析：ローマ・カトリック教義と新約聖書の矛盾点

導入

この文書は、カトリック教会の教理問答（CCC）などの公式教義に示されているローマ・カトリックの教義と新約聖書（NT）との間の矛盾を、正確性を期すためにギリシャ語の原典を用いて、徹底的かつ首尾一貫した分析を提供する。また、初期教父（イグナティウス、ユスティノス、イレナイオス、オリゲネス、テルトゥリアヌス、クリュソストモス、アウグスティヌスなど）の見解を取り入れ、後のカトリックの発展が聖書と教父の証言の両方からどのように乖離していくのかを明らかにする。

黙示録 2 章と 3 章の歴史主義的解釈（プロテスタントの終末論でよく見られる）では、テアテラ教会（黙示録 2:18-29）はローマ・カトリック教会に最も近いとされている。この教会は、教義上の妥協、偶像崇拜、支配の時代（西暦 500 年頃～1500 年頃）を象徴しており、「イゼベル」が偶像崇拜と「サタンの深遠な事柄」に誘惑したことと結びついている。批評家たちはこれを、マリア教義、司祭の独身制スキャンダル、聖人／聖像崇拜、煉獄、聖体変化などに関連付け、中央集権的な教皇権の下で信仰と聖書外の伝統を融合させたものとしている。

分析は次のように構成されています。まず、新約聖書本文との主な矛盾点をまとめた表があり、続いて新約聖書の節、教父たちの見解、そして考察を統合したテーマが提示されます。カトリック教会は、伝統が聖書を発展させると主張し、批判派は聖書のみを重視する立場（*sola scriptura*）と、教父たちの著作と新約聖書との整合性を優先します。より深く研究するには、カトリック教会のカテキズム全文、逐語訳聖書、または教父たちの著作を参照してください。

矛盾点：カトリック教義と新約聖書

この表は、カトリック教会のカテキズム、新約聖書の節、ギリシャ語原文、現代の新国際訳聖書（NIV）の引用に基づき、主な矛盾点を列挙したものです。カトリック教徒はこれらを調和的な展開と捉えています。批判者は聖書の明確な本文に反する追加要素と見えています。

カトリック教義	カトリック教義の 要約	新約聖書の矛盾	ギリシャ語原文と翻訳 (新国際版)
司祭を「神父様」と呼ぶこと	CCC (1549-1553) : 司祭はキリストの代理人として霊的な父となる、伝統による。	マタイによる福音書 23 章 9 節は、地上のいかなる人物をも「父」と呼ぶことを禁じている（天にはただ一人の父がいる）。これは聖職者の称号を禁じるものと解釈されている（カトリック教会の弁明：偽善に対する誇張表現）。	καὶ πατέρα μὴ καλέσητε ὑμῶν ἐπὶ τῆς γῆς· εἷς γὰρ ἐστὶν ὁ Πατὴρ ὑμῶν ὁ οὐράνιος. そして、地上の誰も「父」と呼んではなりません。あなたには父が一人いて、彼は天にいるからです。
繰り返し唱える祈り (例：ロザリオ)	CCC (2708、2691) : 瞑想的な反復祈祷は伝統に根ざしている。	マタイによる福音書 6 章 7 節は、異教徒のように無益な繰り返しをしないように警告している。	Προσευχόμενοι δὲ μὴ βατταλογήσητε, ὥσπερ οἱ ἐθνικοί· δοκοῦσιν γὰρ ὅτι ἐν τῇ πολυλογίᾳ αὐτῶν εἰσακουσθήσονται. また、祈るときは、異教徒のようにおしゃべりし続けしないでください。彼らは言葉が多いので聞いてもらえると思っているからです。

カトリック教義	カトリック教義の 要約	新約聖書の矛盾	ギリシャ語原文と翻訳 (新国際版)
仲介者／共同贖罪者および執り成し手としてのマリア	CCC (969、971)：マリアは仲介者であり、執り成しの擁護者である。	テモテへの手紙第一 2:5: 仲介者はキリスト・イエスただ一人。聖徒たち/マリアを通して仲介者を加える。	Εἷς γὰρ Θεός, εἷς καὶ μεσίτης Θεοῦ καὶ ἀνθρώπων, ἄνθρωπος Χριστὸς Ἰησοῦς。なぜなら、神は一人であり、神と人間との間の仲介者は一人、つまり人間であるキリスト・イエスだからです。
信仰と行いによる救い	CCC (2017-2029)：信仰、洗礼、そして恵みと協力する行いによる義認（ヤコブ 2:24 を引用）。	エペソ 2:8-9: 恵みによって信仰を通して救われるのであって、行いによるのではない（誇らないため）。功績となる行いは除外される（ヤコブの手紙にある信仰の証明について）。	Τῇ γὰρ χάριτί ἐστε σεσωσμένοι διὰ πίστεως, καὶ τοῦτο οὐκ ἐξ ὑμῶν· Θεοῦ τὸ δῶρον. οὐκ ἐξ ἔργων, ἵνα μὴ τις καυχῆσθαι. なぜなら、あなたが救われたのは恵みによる、信仰によるからです。これはあなた自身から出たものではなく、神の賜物です。行いによるものではありません。そのため、誰も誇ることができません。

カトリック教義	カトリック教義の 要約	新約聖書の矛盾	ギリシャ語原文と翻訳 (新国際版)
司祭の独身制	カトリック教会のカテキズム(1579)：ラテン典礼の司祭に、キリストに倣う規律として独身制を義務付ける。	テモテへの手紙第一 3:2: 監督は一人の妻の夫である。既婚の聖職者を認める。	Δεῖ οὖν τὸν ἐπίσκοπον ἀνεπίλημπτον εἶναι, μιᾶς γυναικὸς ἄνδρα, νηφάλιον, σώφρονα, κόσμιον, φιλόξενον, διδακτικόν。さて、監督は非難されるべきではなく、妻に忠実で、温厚で、自制心があり、尊敬に値し、もてなしがあり、教えることができなければなりません。
教皇の不可謬性と首位権	CCC (889-892)：教皇はペトロの後継者であり、信仰と道徳に関して無謬性を持つ。	マタイ 16:18-19: ペトロは基礎となる存在。「ペトラス」(小さな岩/石) 対「ペトラ」(岩盤)。解釈：ペトロ、信仰告白、またはキリスト(コリント 10:4 参照)。後継者なし/無謬性。ペトロ 12:5: 信者は生きた石。	καὶ γὰρ ἐγὼ σοὶ λέγω ὅτι σὺ εἶ Πέτρος, καὶ ἐπὶ ταύτῃ τῇ πέτρᾳ οἰκοδομήσω μου τὴν ἐκκλησίαν... δώσω σοὶ τὰς κλεῖδας... ὡς ἐὰν δή σοι ἀφήσῃς ἐπὶ τῆς γῆς, ἔσται ἀφήσθαι ἐν οὐρανῷ... ὡς ἐὰν δή σοι δεσμεύσῃς ἐπὶ τῆς γῆς, ἔσται δεσμευθῆναι ἐν οὐρανῷ... ὡς ἐὰν δή σοι ἀφήσῃς ἐπὶ τῆς γῆς, ἔσται ἀφήσθαι ἐν οὐρανῷ... ὡς ἐὰν δή σοι δεσμεύσῃς ἐπὶ τῆς γῆς, ἔσται δεσμευθῆναι ἐν οὐρανῷ... さて、監督はあなたに告げます、そしてあなたはペテロです、そしてこの岩の上に私は私の教会を建てます... 私はあなたに天国の鍵を与えます...

カトリック教義	カトリック教義の 要約	新約聖書の矛盾	ギリシャ語原文と翻訳 (新国際版)
煉獄	CCC (1030-1032) : 不完全に浄化された者に対する死後の浄化。	ヘブライ人への手紙 9:27: 死と裁き。中間状態はない (コリント人への手紙第二 5:8 参照)。	καὶ καθ' ὅσον ἀπόκειται τοῖς ἀνθρώποις ἅπαξ ἀποθανεῖν, μετὰ δὲ τοῦτο κρίσις。人は一度死ぬと、その後裁きを受けることが運命づけられているのと同じです。
聖体変化	CCC (1373-1377) : 実体変化による実在。	コリント人への手紙第一 11:24-25: 記念であり、文字通りの意味ではない。ヘブライ人への手紙 10:10-14: 一度限りの犠牲。	τοῦτο ποιεῖτε εἰς τὴν ἐμὴν ἀνάμνησιν。... 私を偲んでこれをしてください。
幼児洗礼	CCC (1250-1252) : 原罪の対象となる幼児は、世帯単位で分類される。	使徒行伝 2 章 38 節 : 悔い改めてから洗礼を受けなさい。マルコによる福音書 16 章 16 節 : まず信じなさい。乳幼児への洗礼は明示的には認められていない。	Μετανοήσατε... καὶ βαπτισθήτω ἕκαστος ὑμῶν。皆さんも悔い改めてバプテスマを受けてください...

	カトリック教義の	新約聖書の矛盾	ギリシャ語原文と翻訳 (新国際版)
カトリック教義	要約		
聖母マリアに関する教義 (例：無原罪懐胎、聖母被昇天、終生処女)	CCC (491-493、966、499-500) : 伝統からの教義。	マタイによる福音書 13 章 55-56 節：イエスの兄弟姉妹とは、他の子供たちを指す。ローマ人への手紙 3 章 23 節：すべての人が罪を犯した。罪がないという前提はない。	οὐχ οὗτός ἐστιν ὁ τοῦ τέκτονος υἱός; οὐχ ἡ μήτηρ αὐτοῦ λέγεται Μαριάμ καὶ οἱ ἀδελφοὶ αὐτοῦ... これは大工の息子ではないですか？彼の母親の名前はメアリーではないでしょうか、そして彼の兄弟ではないでしょうか...
聖人や聖像への崇敬	CCC (2132、1192) : 聖像／聖人への崇敬 (崇拝ではない)。	使徒行伝 10:25-26 : ペテロは崇拝を拒否する。黙示録 19:10 : 天使／聖人崇拝を禁じる。出エジプト記 20:4-5 (偶像崇拝)。	ὁ δὲ Πέτρος ἤγειρεν αὐτὸν λέγων, Ἀνάστα· κἀγὼ αὐτὸς ἄνθρωπός εἰμι. ἰακωβος しかし、ピーターは彼を起き上がらせました。「立ちなさい」と彼は言った。「私自身もただの男です。」

統合されたテーマと思想：新約聖書、教父、そして考察の統合

このセクションでは、新約聖書の矛盾点と教父たちの洞察から、共通のテーマ（権威、救済、仲介など）を統合し、ギリシャ語原文／新国際訳聖書、教父たちの引用、そして考察を盛り込んでいます。教父たちはしばしば新約聖書の強調点（聖書のみ、信仰のみ）に賛同し、後の教義を支持していません。これは、使徒時代以降の「テアテラノス的」発展を浮き彫りにしています。カトリック教会は教父たちの支持を一部引用していますが、批判者たちは相違点を指摘しています。

- 権威と階層（教皇の不可謬性、首位権、「父」などの称号を含む）：カトリック教会のカテキズムは教皇の不可謬性／首位権と司祭の「父」称号を高めている。新約聖書は権威の高揚を警告

している（マタイ 23:9：καὶ πατέρα μὴ καλέσητε... -NIV：地上のだれをも「父」と呼んではならない…）。マタイ 16:18-19：ペトロ（小さな岩）対ペトラ。後継者／不可謬性なし。ペトロの手紙一 2:5：信者は生きた石。教父は混在：ローマ／ペトロを敬う（イレナイオスは後継者、キプリアヌスを挙げている）が、至上性／不可謬性なし。クリュソストモス：岩を「彼の告白の信仰」として。オリゲネス／アウグスティヌス：キリストを岩として。公会議は教皇を訂正した。考察：新約聖書の平等主義的な指導体制から制度化された権力への移行は、テアテラン支配を体現している。父祖たちの「名誉の優位性」は、その行き過ぎた拡大に疑問を投げかける。

- 救いと義認（信仰のみ vs. 信仰+功績ある行い）：カトリック教会のカテキズムは義認のために行いを要求する。新約聖書：行いではなく恵み／信仰（エフェソ 2:8-9：Τῇ γὰρ χάριτι... οὐκ ἐξ ἔργων -NIV：恵みによって…行いによってではなく…）。教父たちはカテキズムに反論している：クリュソストモス（ガラテヤ説教 3:5）：「信仰のみで義とされた」；アリストティデス：「信仰のみによって」；イレナイオス／ローマのクレメンスは信仰のみを肯定している。考察：教父たちはパウロの救いの賜物に呼応し、カトリックの功績主義を使徒時代以降のものとして疑問視している。新約聖書の確信を薄め、テアテラノスの妥協を混ぜ込んでいる。
- 執り成し、仲介、崇敬（仲介者としてのマリア、聖人/像）：CCC：仲介者としてのマリア（969）；聖人/像の崇敬（2132）。新約聖書：唯一の仲介者キリスト（1 テモテ 2:5：Εἰς... μεσίτης... -NIV：唯一の仲介者... キリスト・イエス）；ペトロは崇拜を拒否（使徒 10:25-26：ὁ δὲ Πέτρος... -NIV：私はただの人間です）；天使/聖人の崇拜を禁じる（黙示録 19:10）。教父たちはマリアの地位向上を否定：オリゲネス：マリアには贖罪が必要だった；バジル：疑念を抱く；テルトゥリアヌス/クリュソストモス：虚栄心が強く叱責される；初期の無原罪懐胎はない。思想：新約聖書/教父たちの神への直接的なアクセスを超えて高める；これは、聖書の戒律に反する彫像を建てるという点で、テアテラのイゼベル／偶像崇拜を反映している。
- 秘跡と儀式（実体転換、幼児洗礼、反復祈り）：CCC：実体変更（1374）。幼児洗礼（1250年）。繰り返されるロザリオ（2708）。NT：思い出（1 コリント 11:24：εἰς τὴν ἐμὴν ἀνάμνησιν -NIV：思い出してこれをしなさい...）。まず悔い改める/信じなさい（使徒 2:38：Μετανοήσατε... -NIV：悔い改めてバプテスマを受けなさい...）。無駄な繰り返しはしないでください（マタイ 6:7：μὴ βατταλογήσητε... -NIV：せせらぎを続けしないでください...）。教父たちの象徴的解釈：アテナゴラス、テルトゥリアヌス、オリゲネス、アウグスティヌス、エウセビオスは、文字通りの聖餐を否定した。思想：新約聖書は儀式よりも個人的な信仰／象徴主義を重視している。教父たちの記念的解釈と中世スコラ哲学との比較において、テアテラノスの聖書外の形式が強調

されている。

- 煉獄と死後の世界：カトリック教会のカテキズム：死後の浄化（1030）。新約聖書：死後、裁き（ヘブライ人への手紙 9:27：ἀπόκειται... κρίσις -NIV：一度死ぬ運命にある…裁きに直面する）；主との即時の出会い（コリント人への手紙第二 5:8）。教父たちは混合/否定：アフラハト/ポリュカルポスは煉獄なし；オリゲネスは象徴的（懲罰的ではない）；統一教義は後期（12世紀）。考察：新約聖書/教父たちのキリストの働きの最終性（ヨハネによる福音書 19:30）を欠く；死者のための祈りは宝庫/功績制度ではないため、テアテラノスの追加を示唆している。
- 独身制と聖職者の要件：カトリック教会のカテキズム：独身制を義務付け（1579年）。新約聖書：既婚の監督者（1テモテ 3:2：μῦς γυναικὸς ἄνδρα -NIV：妻に忠実）。教父：既婚聖職者の規範（1～4世紀）。イグナティウスは禁欲を称賛（禁止なし）。アレクサンドリアのクレメンス/ヒエロニムスは既婚の指導者について言及。後に強制（11世紀）。思想：教義ではなく規律。教父の許可は、新約聖書の実践に反するテュアティラの律法主義を露呈している。
- 聖書のみと全体的権威：カトリック教会のカテキズムは、伝統と教導権を同等に重視する。新約聖書/教父：聖書中心主義（例：アタナシウス/イレナイオス/ヒエロニムス/アレクサンドリアのクレメンスは聖書のみを肯定）。思想：教父たちの聖書中心主義は、カトリック教会の二つの情報源に異議を唱え、新約聖書/教父の証言から逸脱し、テアテラの容認された誤りを包含する。

この統一的な分析は、カトリック教義が後世に発展したものであり、新約聖書の簡潔さや初期教父たちの強調点とはしばしば矛盾し、テアテラの混合性を体現していることを明らかにしている。擁護論と批判論のバランスの取れた考察が推奨される。